

札幌市議団ニュース

2010年10月29日 No.27

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

決算特別委員会・論戦特集 ⑨ 村上議員

厳冬期の避難所の 防寒対策の強化を求める

避難場所と備蓄倉庫の一致を！

札幌市は現在、災害時の防災備蓄拠点を小学校全体の1/4に限定し、残る3/4の小学校には、日通などの民間業者に依頼して備蓄倉庫から物資を搬送する仕組みになっています。ところが災害時の搬送には、かなりの時間がかかること、吹雪で進行が不能になるなど、様々な障害が想定されることから、避難場所と備蓄倉庫の一致はどうしても欠かせない行政課題です。

質問に立った村上 仁議員はまず、避難場所と備蓄倉庫のミスマッチの解消を「すべての小学校体育館に一定の物資を分散配置する形で一致させる」ことを求めました。これに対し、山崎正滋危機管理対策部長は「一定量を全校へ分散配置することは非効率との判断で、1/4に限定している」と強弁しました。

緊急防寒ブランケットなど 防寒備蓄品として新たに加えるべき

村上議員はまた「厳冬期午前3時、マイナス10度、低体温症になる、1～2時間が生死を分ける、といった場合を考えてください。積雪寒冷地の札幌で、とりわけ厳冬期において災害時要保護者が寒さのために亡くなるのが懸念されます。私は“救える命を救いたい”。物資の全校分散配置の努力とともに、防寒用として、すべての小学校体育館に毛布など一定量の備蓄が必要です。そして場所を取らない、価格も手頃な使い捨てカイロや保温性に優れる緊急防寒ブランケット（アルミ製、1000円前後）などを、厳冬期の防寒備蓄品として新たに加えるべきと思うが、どうか」と中田博幸副市長に答弁を求めました。

副市長は「ご指摘は非常にもっともなこと。全体の枠の中でどういうものを備蓄したらいいのか、検討したい」と、前向きに答弁しました。（10/21）



←イメージ映像

写真は、
250×120cm
1000円前後のもの